

道場親信の思想と仕事

『下丸子文化集団とその時代』刊行記念の集い

9月に逝去された道場親信さんが、闘病のかたわら精魂をこめて書きあげた著書『下丸子文化集団とその時代』が刊行されました（みすず書房、10月刊）。

社会運動・文化運動研究を全身で生きぬいた道場さんを偲び、その思想と仕事を記憶・歴史に刻んでいくために、シンポジウムと懇親会をひらいて語り合いたいと思います。

道場さんを直接ご存知のみなさん、著作を通してご関心をもった方々も、年明け1月9日にぜひお集まりください。

日時

2017年1月9日（月・休日）

14時～17時 第1部 シンポジウム

18時～20時 第2部 懇親会

会場

在日本韓国 YMCA アジア青少年センター

第1部 シンポジウム：地下スペースYホール
（資料代：1000円）

第2部 懇親会：9階国際ホール（会費：3000円）
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-5-5

シンポジウム内容

1. サークル文化運動をめぐって

宇野田尚哉（東アジア冷戦と広島運動の観点から）
水溜真由美（筑豊の運動とサークルネットワークの観点から）

2. 住民運動・市民運動をめぐって

安田常雄

3. 戦後論と反戦平和運動をめぐって

太田昌国

4. 社会運動の夢と文化をめぐって

酒井隆史

（司会）戸邊秀明



連絡先 道場さんを偲ぶ会・実行委員会（みすず書房内）

メールアドレス：0109@msz.co.jp tel. 03 (3815) 9181 fax. 03 (3818) 8497（みすず書房編集部・鈴木）

*懇親会に出席される方は、準備の都合上、上記メールアドレス（または電話・ファックス）にて予約申し込みをお願いします（12月20日まで）。

*第1部シンポジウムのみ、第2部懇親会のみ参加も可能です。

主催 道場さんを偲ぶ会・実行委員会（池上善彦、渋谷望、鈴木英果、田浪亜央江、戸邊秀明、松井隆志、米谷匡史）

道場親信

『下丸子文化集団とその時代』

——1950年代サークル文化運動の光芒』

(みすず書房、2016年10月末刊行、本体価格3800円)



1950年代、「サークル文化運動」が空前の盛り上がりを見せていた。誰もが詩や小説を書き、ガリ版で刷り、集まっては語りあった。文化産業は未発達で、そして人びとは貧しかった。サークル文化運動は全国にまたたくまに広まり、文学サークル、うたごえサークル、演劇サークルなど、各地に無数のサークルができた。

そのなかでも光を放っていたのが、東京南部の「下丸子文化集団」である。軍需工場ひしめく一大工業地帯だった東京南部（大田区・品川区・港区）で働く若い労働者による「下丸子文化集団」は、『詩集下丸子』『石ツブテ』などの詩誌や、「原爆を許すまじ」などの歌を生み出し、全国に大きな影響を与えた。

わら半紙にガリ版の印刷物、うたごえ運動や演劇活動ゆえに、一大ブームを巻き起こしたサークル文化運動は、資料としてわずかな痕跡しか残していない。本書はそれらの資料の丹念な読み込みと、当事者への膨大なインタビューを行いながら、「もう一つの戦後史」を鮮やかに浮かび上がらせる。

道場親信（みちば ちかのぶ）

1967年2月17日生まれ。2016年9月14日逝去（享年49）。和光大学現代人間学部教授。早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。専門は社会運動論・日本社会科学史。

著書に『占領と平和—〈戦後〉という経験』（青土社、2005年）、『抵抗の同時代史—軍事化とネオリベリズムに抗して』（人文書院、2008年）。

共著に『社会運動の社会学』（有斐閣、2004年）、『戦後日本スタディーズ2』（紀伊國屋書店、2009年）、『読む人・書く人・編集する人—『思想の科学』50年と、それから』（思想の科学社、2010年）、『くつながら／つながらない〉の社会学—個人化する時代のコミュニティのかたち』（弘文堂、2014年）、『ひとびとの精神史』第2巻・第6巻（岩波書店、2015—2016年）、『岩波講座 日本歴史』第19巻（岩波書店、2015年）ほか。

近刊に『「サークル誌の時代」を読む—戦後文化運動研究への招待』（宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみと共編、影書房、2016年）、『「うたごえ」運動資料集』（河西秀哉と共編、金沢文圃閣、2016—2017年）、『共同研究 思想の科学とサークルの戦後史』（天野正子と共編、有志舎、2017年）がある。